

公益社団法人鎌倉青年会議所は、本年で創立50周年という節目の年を迎える事が出来ました。これもひとえに日頃より我々の運動に対しまして多大なるご理解・ご協力・ご指導・ご鞭撻を頂いております先輩諸兄の皆様方、関係諸団体の皆様方のご理解・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。青年会議所運動を推し進めていくには、決めた目的に向かって困難をものともせず、自らが思い切ってまっしぐらに進んでいく事で自らが決めた目的を達成出来る、そんな思いを描き、テーマ「敢為邁往」 スローガンを「恐るな、自信を持って突き進もう」と掲げました。

50周年記念事業委員会は、50周年を記念し、キーホルダーやピンバッジなどの記念品を作成いたしました。8月に「鎌倉夜会～D-K とライブと屋台の織成す新たな鎌倉」と題して、50周年記念事業を行い、市民の皆様にも夜の鎌倉で楽しめる新しい魅力を感じて頂く事が出来ました。10月には50周年記念式典で、茶道裏千家千宗室お家元様より地域の方々との繋がりを大切にする事が、まちづくりに活かされる為の特別講演を頂戴しました。歴代理事長の登壇や「IZA 鎌倉」の明示などを行い、鎌倉青年会議所の今までの活動に対して敬意と感謝を表し、今後の活動へのご理解とご支援を頂き事が出来た事は、地域に必要とされる団体として、鎌倉のまちの為にまちづくり運動を行う団体であり続けられると確信しております。

まちづくり委員会は、鎌倉のまちが安心して住める魅力溢れるまちとして、地域力を高めるべく活動を行いました。2月には当会議所会員が防災の枠組みの理解と有事の際に実用性のある技術を身に付ける為に「普通救命講習」を受講致しました。そして5月には協働団体の方々と共に鎌倉の魅力を感じて頂く場としてテーマ「伸ばそう鎌倉の魅力」と題して、第46回慈善茶会を開催致しました。また11月は当会議所と市民と行政と共に自助・共助・公助を体感出来る事業を行いました。これらの事業は参加者の知識や意識を変化させる事で地域力の向上に繋がり、安心できるまちを築いていく一助になったと確信致します。

拡大研修委員会は、青年会議所で学んだ事を地域に還元し、地域に貢献出来る人を増やす為に活動を行いました。4月は会員が青年会議所を通じて、会社や地域にどの様に還元して行くのかと青年会議所運動の必要性を再確認するため福井正興氏をお招きして講演会を開催致しました。そして、今年の3LOM 合同例会は藤沢青年会議所主管のもとでマジックを通じて、人を楽しませる秘訣や技術を学び、コミュニケーション能力の向上を図る為に開催致しました。また、9月は目的達成の為に団結力の向上を学ぶ為、体験型セミナー

を開催致しました。これらの事業を通じて会員個人の資質向上に繋がり、地域に貢献出来る人と成長していく事に繋がると確信致します。

総務交流委員会は、当会議所全体を支える委員会として総会・理事会の運営、出向者の支援、関係諸団体の事業や交流事業の参加や設営を行いました。1月は50周年の門出を祝う為に、新年式典・賀詞交歓会を開催しご来賓の方々と交流を深めました。3月はOBの諸先輩方と50年目の創立記念日をお祝い致しました。また、7月の次年度理事長を祝う会では、次年度予定者の人柄を知ってもらい次年度に繋げていく為に開催致しました。9月は神奈川ブロック協議会の運動最大の発信の場を体験する共に出向者支援を行う為に参加しました。そして、12月は本年度の総括として年末式典・卒業式を行いました。これらの事業を通じて、会員の成長や信頼関係を深める事に繋がったと確信致します。

一年間の事業を通じて、「ひとはひとと共に生き、ひとと交わりながら、人になっていく」と言う言葉の通り、今年一年、関係諸団体や市民の皆様など多くの人と出会い友情を深める事が出来、また様々な経験をした事により、自分自身の成長に繋がり、まちや会社や家族に還元出来る人として大きく成長したと思います、自信と誇りを持って、今後の青年会議所運動の糧として頂きたい。最後となりますが、リーダーとして委員会を取り纏めた頂いた委員長の皆様、委員長の元で共に活動してきた全会員の皆様、委員会を支えて頂いた川島副理事長、磯部副理事長、いつも冷静に的確なご指示ご指導を頂きました酒井直前理事長、石井特別監事、宮川監事そして私と一年間共に走り続けてくれた渡邊専務理事に心より感謝を申し上げ、理事長報告とさせていただきます。

一年間、本当にありがとうございました。

副理事長報告

副理事長 川島 吉弘

2014年度、私は「50周年記念事業委員会」と「拡大研修委員会」の2つの委員会を担当いたしました。

まず「50周年記念事業委員会」は言うまでもなく鎌倉青年会議所50周年の記念事業と式典を担当する委員会でした。これまでの鎌倉青年会議所の歩みを感じる大変重みのある委員会となりましたが、次年度段階から大崎委員長を中心にとってもまとまりのある委員会運営を行ってくれました。8月に開始いたしました記念事業は多くの関係者、シニアクラブの先輩方のご支援・ご協力の下、予想を上回る素晴らしい事業が出来たと自負しており、その場面に現役会員として立ち会えた事に感謝しております。また10月に開催いたしました記念式典には鎌倉市内外と問わず多くの皆様をお迎えできました。歴代理事長の先輩方の登壇は壮大なものであり、素直に感動いたしました。

次に「拡大研修委員会」ですが、会員の減少に歯止めを掛けるべくその責任は大変大きなものでありました。蓮見委員長が中心となりこれまでの拡大手法を見直し、新たなチャレンジをいたしました。結果としては満足の得られない部分もありましたが、この地域で活動する上で留意することを多く学べたと考えます。担当した例会においては、広く一般市民や拡大対象者を呼べたことで、鎌倉青年会議所を知っていただく機会になったと考えております。特筆すべきことは、卒業までの在籍年数が短い現在の青年会議所において、20代のメンバーに入会していただきました。これは、喜びでもありますが、一方で若いメンバーを育てるといふ我々に科せられた非常に重い使命だと思えます。

2つの委員会を担当した率直な感想として、なかなか目の行き届かないところもあったと反省しております。しかしながら、2015年度の鎌倉青年会議所を牽引してゆくメンバーが多く輩出できたことは、担当副理事長として大変嬉しいことです。是非、本年の経験を活かしていただきたいと思いますと考えております。

最後になりますが、副理事長に任命して下さいました石渡理事長をはじめ、磯部副理事長、渡邊専務理事、委員会を一年間牽引してくれた大崎委員長と蓮見委員長をはじめとする各委員会メンバーの皆様、そしてご協力くださいました全ての皆様に感謝と御礼を申し上げ副理事長報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

副理事長 磯部 伸夫

本年度、石渡理事長が掲げる「敢為邁往」というテーマのもと、初めてとなる副理事長を務めさせていただきました。

私が担当をさせていただいたのは樋渡委員長率いるまちづくり委員会であり、大きな事業である慈善茶会と防災関係の事業を担当しました。慈善茶会では細やかな気配りが必要な役割の中で、私の配慮が足りず委員長ともども苦慮することが多くありました。そのような中でも、常に困難に屈することなく、本年をやり遂げる意思を持って行動をして参りました。防災事業では、委員長を担当していた時に培った防災関係の知識をもとに、委員長とともに事業を構築し、ともに達成感を味わうことができました。

最後に、副理事長として共に活動した川島副理事長、運営にご尽力いただいた渡邊専務、1年間をともに切磋琢磨しながら活動できたことは私自身の貴重な経験になりました。また、委員会運営を行っていた樋渡委員長、メタ副委員長とそれをサポートしていただいた委員会メンバー、そしてこのような貴重な機会を与えて下さいました石渡理事長に感謝を申し上げ、副理事長報告とさせていただきます。

専務理事報告

専務理事 渡邊 智治

私は2014年度、公益社団法人鎌倉青年会議所の専務理事を務めさせて頂きました。職務としましては、理事長、副理事長の補佐、会の運営を行う総務委員会の担当、会の予算の管理を行う財務の担当、関係諸団体との連絡調整等多岐にわたります。これだけの職務を自分が全うすることが出来るかという思いと、今までに無い観点から物事を見ることが出来るという思いを持ちながらスタートしました。年当初より外に出て行く機会が多く、各地青年会議所や外部団体との情報交換も頻繁にあり、これまでの役職とは大きく異なり戸惑いや不安もありました。しかし、それ以上に多くの出会いがあり、中でも同じ境遇である各地青年会議所の専務理事と様々な話しをしました。時にはお互いの悩みを語りながら勇気をもらい職務を行ってまいりました。

担当させて頂きました総務交流委員会では、竹生田委員長を中心として、総会、年間5回の例会、毎月の理事会の運営を中心に活動させて頂きました。

理事長を支え、専務理事として一年間円滑に職務を行えたかは疑念が残ります。しかし、この役職を頂き、私自身、多くのことを学んで確実に成長させて頂きました。

最後となりますが、専務理事という役職を下さいました石渡理事長をはじめ川島副理事長、磯部副理事長、竹生田委員長をはじめとする総務交流委員会のメンバー、そして全ての皆様に感謝申し上げ専務理事報告とさせて頂きます。一年間本当にありがとうございました。

2014年度 委員会事業報告

まちづくり委員会

50周年記念事業委員会

拡大研修委員会

総務交流委員会

まちづくり委員会

- 委員長 名：樋渡 悠浩
- 副委員長 名：メタ・バラツツ
- 委員 名：大谷 章、大西 広朗、山本 朋広、松永 充広

1) 事業報告

(I) 防災を学ぶ事業の開催

- (a) 内 容：勉強会の開催
- (b) 時 期：2014年 2月
- (c) 対 象：会員を対象に40名程度及び入会希望者
- (d) 結果の公表：ホームページ及び総会資料に掲載

(II) まちの魅力を発展させる事業の開催

- (a) 内 容：第46回慈善茶会の開催
- (b) 時 期：2014年 5月
- (c) 対 象：会員を対象に40名程度及び入会希望者、OB、来訪JC、市民、学生
協働団体関係者、茶道関係者
- (d) 結果の公表：ホームページ及び総会資料に掲載

(III) 関係諸団体との信頼関係を深める事業の開催

- (a) 内 容：第46回慈善茶会後の懇親会を開催
- (b) 時 期：2014年 5月～6月
- (c) 対 象：会員を対象に40名程度及び入会希望者、OB、学生、協働団体関係者、
茶道関係者
- (d) 結果の公表：ホームページ及び総会資料に掲載

(IV) 安心できるまちを築いていく事業の開催

- (a) 内 容：市民参加の体験型事業の開催
- (b) 時 期：2014年11月
- (c) 対 象：会員を対象に40名程度及び入会希望者、市民
- (d) 結果の公表：ホームページ及び総会資料に掲載

2) 委員会報告

鎌倉のまちは、市民、鎌倉青年会議所等の諸団体による永きに亘るまちづくり運動により成熟した姿に成長して参りました。しかし、成熟度の高いまちであっても、すべてにおいて完全なまちなどは存在するはずありません。本当に安心して住めるまちなのでしょうか。また所与の文化遺産の魅力に依存しており、まちの魅力を発展させる意識が薄れてきているのではないのでしょうか。本年度まちづくり委員会としては、この様な諸問題と向き合い、安心して住める魅力溢れるまちとして、地域の力を高め

るべく活動して参りました。

はじめに、地域に住むものが担っている社会的役割の一つである地域防災についての役目を果たすべく、その主体たる我々会員がこのまちの防災について学ぶ事業を行いました。次に、我々青年が諸団体と協働し歴史ある文化遺産を活用させていただくことで、幅広い世代に伝統文化の魅力を感じて頂き、まちの魅力を発展させて行く意識を高める為、第46回慈善茶会を開催させて頂きました。併せて、当会議所と、関係諸団体の皆様との更なる信頼関係を構築するために、慈善茶会当日に関係者の皆様をお招きし懇親会を開催させて頂きました。11月例会では、我々会員が防災に関して学んだことを活かし、市民の方々と共に、安心できるまちを築いていく為、「自助・協助・公助」を楽しみながら学ぶ事業を行いました。

これらの事業を本年度のテーマである「敢為邁往」の精神で取り組むことにより、このまちに住む人々の安心感が高まり、併せて歴史に彩られたこのまちの魅力を発信することが出来ました。このような公益性の高い、地域に根差した運動により安心して住める魅力溢れるまちへと近づくことは、地域の力を高めることへと繋がり、ひいては青年会議所の掲げる「明るい豊かな社会」の創造の一助になることが出来たと確信いたします。最後となりますが、本年度のまちづくり委員会の運動を推し進めるに当たりご協力・ご参加いただきましたすべての皆様に心より感謝を申しあげ、委員会の年間報告とさせていただきます。

50周年記念事業委員会

●委員長名：大崎 厚郎

●副委員長名：牧田 芳明

●委員名：今村 広太郎、上畠 寛弘、黒木 伸太郎、長南 光紀、永田 磨梨奈、橋本 航季、
宮沢 輝

1) 事業報告

(I) 今までの活動報告並びに次なる運動の方向性を明示する事業

(a) 内容：50周年記念式典、祝賀会の開催並びに中期ビジョンの明示

(b) 時期：2014年10月21日

(c) 対象：正会員29名、OB84名、来訪JC70名、来賓64名 合計247名

(II) 鎌倉の魅力創造する記念事業の開催

(a) 内容：50周年記念事業の開催

(b) 時期：2014年 8月24日

(c) 対象：正会員33名、OB15名、ゲスト3名、来訪JC20名、市民約2000名

(III) 50周年記念誌の発行並びに50周年のシンボルマークを用いた記念品の作成

(a) 内容：50周年記念誌の発行並びに50周年のシンボルマークを用いた記念グッズの作成

(b) 時期：2014年 1月～12月

(c) 対象：会員を対象に40名程度及びOB、関係諸団体、市民

2) 委員会報告

50周年記念事業委員会では、本年で50周年という節目の年を迎えるに当たり、この節目の年だからこそ今までの活動に対して敬意を表すと同時に次の10年を活動するためのスタートの1年として位置付け活動してまいりました。当委員会では、今後も鎌倉を好きでい続けてもらう事と鎌倉を好きになる人が増え続けることが重要であり、その為には今、市民の皆様にも今まで以上に鎌倉の魅力を見出し感じてもらう事業が必要だと考えました。

8月例会では50周年記念事業を「鎌倉夜会～D-Kとライブと屋台の織成す新たな鎌倉～」と題して開催致しました。本例会は、夜の鎌倉で楽しめる新しい魅力を創造する為に建長寺をメイン会場とし、デジタル掛け軸により、歴史と未来が調和したと感じてもらう新しい一面を創り出しました。さらに、日本独自の楽器による演奏をして頂き、会場に幻想的な雰囲気を作り出しました。また、イベントとして、当会議所に馴染みの深い鎌倉駅西口広場の時計台にもデジタル掛け軸を投影するとともに、多くの会員が広報活動を行ったことで当日の建長寺では、開場前から多くのお客様にお並びを頂くことが出来ました。50周年というスケールメリットを活用し市民の皆様にも楽しんで頂けたと考えております。

10月例会では50周年記念式典・祝賀会を開催致し、各地で活動をしている青年会議所の皆様、今まで支えて頂いてきた関係諸団体並びに諸先輩の皆様をお呼びし感謝の念を伝えました。また当会議所が今後10年間の進むべき道筋である中期ビジョン「I Z A！鎌倉」を映像にて明示しました。更に、歴代理事長による登壇にて鎌倉青年会議所の歴史の重さを感じる事が出来ました。祝賀会では会員がご臨席頂いた皆様に敬意と感謝の心を込めたおもてなしで皆様との懇親を図り今後の活動への理解と変わらぬ支援を頂ける場となりました。

3つめの事業として、記念誌、50周年のシンボルマークを用いた記念品を作成しました。記念誌ではここ5年の当会議所の活動を御報告させていただくと共により当会議所への理解を深めて頂く媒体となりました。記念品は会員、諸先輩、関係諸団体の皆様との更なる仲間意識を醸成する一つのきっかけとするためにキーホルダー・ピンバッジを作成致しました。これは、一年を通じてトレードマークとなり当委員会でもとても重要なものになったと考えております。

当委員会の取組により会員、諸先輩、関係諸団体の皆様と同じ目標に向かって進むことによって敢為邁往の精神の下に活動が達成できたと考えます。最後となりますが、委員会メンバーの協力もあって日毎に結束力の高まる大変良い委員会運営が出来たと考えております。委員会活動や例会に積極的に参加をして頂いたメンバーの皆様、そしてご協力、ご参加を頂いた全ての皆様に厚く御礼申し上げ委員会報告とさせていただきます。

一年間本当にありがとうございました。

拡大研修委員会

- 委員長名：蓮見 太郎
- 副委員長名：吉田 英之
- 委員名：大森 啓田、長野 トーマスマコト、柳澤 大介、吉村 桃実、坂本 創志

1) 事業報告

(I) 会員拡大、オリエンテーションの実施

- (a) 内容：会員拡大、青年会議所の基本概要の説明、新入会員の育成、拡大ツールの作成
- (b) 時期：2014年 1月～12月
- (c) 対象：新入会員 7名 オリエンテーション 7名

(II) 青年会議所の魅力を広め地域に貢献する必要性を学ぶ事業の開催

- (a) 内容：勉強会の実施
- (b) 時期：2014年 4月15日（火）
- (c) 開催場所：第1部 鎌倉商工会議所地下ホール 鎌倉市御成町17-29
第2部 GARDEN HOUSE 鎌倉市御成町15-46
- (d) 対象：正会員25名 OB10名 ゲスト38名

(II) 青年会議所の魅力を広め地域に貢献する必要性を学ぶ事業の開催

- (a) 内容：勉強会の実施
- (b) 時期：2014年 9月29日（月）
- (c) 開催場所：鎌倉芸術館 集会室 神奈川県鎌倉市大船6-1-2
- (d) 対象：正会員20名 OB2名 ゲスト29名

(III) 近隣LOMと協働し社会貢献できる事業の開催

- (a) 内容：3LOM合同例会の開催
- (b) 時期：2014年 6月12日（木）
- (c) 開催場所：藤沢商工会館（ミナパーク）6階 多目的ホール 藤沢市藤沢607-1
- (d) 対象：公益社団法人鎌倉青年会議所 正会員22名 OB1名
一般社団法人藤沢青年会議所会員 正会員26名
一般社団法人逗子葉山青年会議所 正会員12名 オブザーバー7名

1) 委員会報告

本年度、拡大研修委員会では明るい豊かな社会の実現を目指す為に、一人でも多くの青年会議所運動の理解者を増やす必要があると考え、会員の拡大を最重要課題と位置付けると同時に、地域の青年経済人としての研修事業を行って参りました。

まず、会員拡大については過去の手法を検証し、委員会はもとより全ての会員が当会議所の存在意義や魅力を発信できるように、市民からも認知されやすい拡大ツールの制作に取り組みました。しかし、現役メンバーを中心にOB、市民と一緒に撮影したポスターに使用する画像について、当会議所にとって不適切であるというメディアの反応や、各所からの声があがったため、残念ながら掲示公開を取りやめました。また、拡大対象者と入会年数が浅い会員にJCの魅力伝えるために、神奈川ブロック協議会より役員をお招きして、JC活動の意義やJCで学んだことをご講演いただく入会説明会を開催いたしました。LOM全体で拡大活動に取り組むという姿勢づくりと、拡大対象者リストの拡充を目的に、理事長を始め各委員長のご協力をいただきながら、商店街への訪問活動を行いました。

青年会議所の魅力を広め地域に貢献する必要性を学ぶ事業として、公益社団法人日本青年会議所第60代会頭をお務めになられた、株式会社福寿園代表取締役社長の福井正興先輩を講師としてお招きし、JC活動を通じて得た経験を、会社や地域にどのように還元したのかをご講演いただき、青年会議所運動の必要性を参加者に知っていただきました。6月例会では、一般社団法人藤沢青年会議所が主管となり、一般社団法人逗子葉山青年会議所と共に、マジシャンを講師としてお招きし、人を楽しませるスキル習得を通じて、拡大対象者に向き合うコミュニケーション能力を向上する機会を構築して参りました。3LOMのメンバーとも演習を通じて打ち解け合うことができ一体感が生まれました。そして9月第二例会では、チームビルディングの専門家を講師にお迎えして体験型セミナーを開催し、多くの参加いただいた市民とともに、チームビルディングに必要なスキルや知識を実際に体感しながら学びました。会員拡大をはじめとする目的達成のため、チームに団結力をもたらす技術を学ぶことができ、鎌倉青年会議所の活動の推進力向上につながりました。

本年度は20名の会員拡大を目標に掲げて活動して参りましたが、委員会として拡大活動に十分な活動量を投じられたとは言い難く、結果は及びませんでした。しかしながら若い入会者が多く、50周年にあたる節目の年を経験したLOMの未来にとって核となりうるメンバーが誕生したことは、当会議所が掲げる「明るい豊かな社会の創造」への強い推進力になると確信しております。最後となりますが、ご指導頂きました石渡理事長をはじめといたします正副理事長並びに監事の皆様、ご指導いただいた当委員会担当の川島副理事長、そして苦しい中でも手を携えあえた素晴らしい委員会メンバーの皆様、そして新入会員拡大活動に多大なご協力をいただきました鎌倉青年会議所のすべてのメンバーに深く感謝を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

総務交流委員会

- 委員長 名：竹生田 修
- 副委員長 名：光山 英虎
- 委員 名：斉藤 正朗、杉浦 大介、二見 宏史、御代川 洋平、脇本 遼

1) 事業報告

(I) 会議の開催及び青年会議所運営全般

- (a) 内 容：総会並びに理事会の開催、鎌倉青年会議所の運営
- (b) 時 期：2014年 1月～12月
- (c) 開催場所：鎌倉商工会議所202会議室他

(II) 広報・渉外に関する事業

【広報】

- (a) 内 容：ホームページの管理・運営、外部への情報発信
- (b) 時 期：2014年 1月～12月

【渉外】

- (a) 内 容：①(公社)日本青年会議所の事業への参加
②関東地区協議会の事業への参加
③神奈川ブロック協議会の事業への参加
④出向者支援
⑤関係諸団体の事業への参加
- (b) 時 期：2014年 1月～12月
- (c) 開催場所：①愛知県松山市他
②千葉県成田市他
③神奈川県内及び近隣地域
④鎌倉市内及び近隣地域
- (d) 対 象：①正会員8名 OB1名
③正会員17名 OB15名

(III) 交流会の開催

- (a) 内 容：①賀詞交歓会の開催
②メモリアルデーの開催
③次年度理事長を祝う会の開催
④「年末式典・卒業式」・「卒業生を送る会」の開催
- (b) 時 期：①2014年 1月21日(火曜日)
②2014年 3月13日(木曜日)
③2014年 7月22日(火曜日)
④2014年12月21日(火曜日)
- (c) 開催場所：①鎌倉パークホテル 海星の間 翠雲の間

- ②鎌倉パークホテル 翠雲の間
- ③銀座アスター鎌倉賓館
- ④鎌倉華正楼

- (d) 対象：①正会員 29名 OB 37名 入会希望者 8名 来 29名
来訪 JC 42名
- ②正会員 22名 OB 29名 入会希望者 2名
 - ③正会員 25名 OB 24名 入会希望者 1名
 - ④正会員 27名 OB 18名

2) 委員会報告

公益社団法人鎌倉青年会議所は、本年で節目となる創立50周年を迎え一年間活動して参りました。これからも地域に根ざした活動をしていく為には、組織の運営を円滑に行うと共に内外の信頼関係を深めることが大切であると考え一年間活動して参りました。

会議の開催及び青年会議所運営全般として、総会や理事会において、議事録作成、総会資料作成を含む諸会議設営を行って参りましたが、諸会議を開催時間の遅れや書類の不備などで円滑に運営することが困難であったと反省しております。

次に、広報事業については、ホームページやフェイスブックの配信についても滞ってしまうことが多々あり、当会議所が行う事業の告知や事業報告を内外に発信することの義務を果たすことが出来なかったと考えております。渉外事業では日本青年会議所・関東地区協議会・神奈川ブロック協議会に出向する会員を支援し、出向者以外の会員にも参加を促しました。また関係諸団体の事業へ会員の積極的な参加を促すことで地域との信頼関係を深めることができたと考えますが、課題として会員に出向者のサポートとしてさらなる参加意識の高めより参加者を増やすことが課題であると感じました。

交流事業については、1月例会の年末式典・賀詞交歓会では、華やかで年の初めに相応しい設営ができました。その他の3月例会、7月例会、12月例会の交流会では、現役がOBとの交流を深めることが出来たと考えますが、準備不足な部分があり、また動員がうまくいかず出席率が悪かったことを反省点であります。

本年度、初めて委員長をやらせて頂きましたが、至らぬ所ばかりで反省することばかりではございましたが、年間の活動を通して、強い組織を築く一助になったと確信致します。最後になりますが、一年間やってこられたのも叱咤激励して頂き、ご意見を頂き、長い時間お付き合い頂きました会員の皆様をはじめ、ご協力、ご参加頂いた全ての皆様に厚く御礼申し上げ総務交流委員会報告と致します。